

部員の造反(思い出の出来事)

第14期 真栄信二

(何せ、40年も前のこと故、具体的なことは何一つ思い出せないが、印象深い出来事が一つあるのでそれを記す。)

「先輩達はもうグラウンドへ来ないでください!」

「これからは、練習は自分達だけでやります!」

放課後の練習指導に来ていたOBの方々に前に、2・3年生の部員達は口々にそう叫んだ。

部員のOBに対する造反である。千歳ラグビー部創始以来初めての出来事であろう。その時の部員達の気迫に、強者のOB達も返す言葉が見つからなかったようだった。

「従来のスパルタ式練習だけでは、ラグビーそのものが面白くなる。自分達の頭で考え、自分達に合った効率の良い練習をしたい。ラグビーは勝つためだけでなく、楽しむためにある!」

日々そう考えながらも、OB達の画一的スパルタ方式の練習に不満を募らせていた部員達は、遂に立ち上がったのだった。

誰が口火を切り、その時居合わせたOB諸氏はどなた達であったか、今は記憶が定かでない。私が3年生の時の出来事であったのは確かである。

その出来事からしばらくの間、OB達はグラウンドに顔を見せなかった。OBの居ない練習は、はじめ頃は間

の抜けた気分であったが、やがて自主性が芽生え、練習に工夫がもたらされていった。サインプレーの練習も多くやったものだった。

しかしか、やはりか、チームはその後一向に強くならなかったのである。

○当時3年生のメンバーとポジション

真栄信二(2:フッカー)

山本 宏(3:プロップ)

平岡 功(4:ロック)

永田育夫(5:ロック)

亀谷重信(6:フランカー、主将)

阿部 弘(11:ウイング)

中村知己(13:?)

常世田靖一(14:ウイング)

ポジションに多少記憶違いがあるかも知れない。

(第 14 期 同期生からのことば)

14番以外を背中に付けたことがない。トライゲッター。練習嫌い。天才。

常世田靖一

ラグビーが自分を変えたのは確かだ。

真栄信二